

児童教育を支援する「博報財団」が、すぐれた取り組みを顕彰する

第49回「博報賞」受賞

教育活性化部門

高知県高知市永国寺町

認定NPO法人 高知ぐんぐん子どもの図書館

市民の熱い思いが
子どもたちのための
夢の図書館を生んだ

「あっちにおもしろい本があるよ」「私は、おきるのジョージの本が好き」「ここに来るとね、なんか楽しいんだよ」
こう話しかけてくれたのは、高知こども図書館の「常連」の4歳と5歳の女の子と男の子。彼らは1階の書架を一巡すると、2階の多目的スペースにある、ままごとコーナーへと駆け上がって行った。子どもたちを連れてきたお母さんは、「まず思いつきり遊んでから本を選び始めるので、いつも長居してしまいます」と苦笑しつつも、伸び伸びとした子どもたちの姿に目を細める。そんな親子を見つめつつ、「ここは、誰もが気軽に來ることができ、居

心地の良い場所であってほしいんです」と館長の古川佳代子氏は語る。
「行きたいなと思ったら10分程度本に出会える、子どもたちのための図書館をつくりたい」とそんな夢を抱いた5人の有志たちの思いが結実して誕生した高知こども図書館。計画のきっかけは、高知県立図書館の移転・新築計画が議会上がったことだった。「本が好き」「有志を中心に、署名運動を展開。移転後の建物も、県立の子どものための図書館にするための構想を練り上げていった。」

しかしその後、社会情勢の変化もあり、県立図書館移転計画そのものが中断。子ども図書館の構想も、断念せざるを得ない状況となったところへ、今度は県の方から、建物を無償貸与するので図書館運営をしてみてもどうかという提案が届いた。「民営」で図書館運営ができるのか不安は大きかったと、古川館長は当時を振り返る。
「しかし、私たちにはみんな

みんなに応援してもらえ、支えたいと思ってもらう図書館をつくらう！」と、開館を決めました(古川館長)
折しも特定非営利活動法(NPO法)の施行とも重なり、高知こども図書館は、日本で初めてNPO法人が運営する「子ども本専門の図書館」として、1999年に

開館した。
高知こども図書館では、県内各地に出向く活動にも力を注いでいる。それは、構想時に抱いた理想の図書館像にも重なる。
「市内と郡部に住んでいる子どもは、本と出合う機会に大きな開きがあるのが現実です。どこに住んでいても、同じ量と質の本に出合える高知県になったらいなという思いがありました(古川館長)」

図書館はさまざまなか
楽しいことに出会える
場所でありたい

こうして助成金を利用して始まったのが「巡回こども図書館」の試みだ。図書館や書店のない中山間地域に期間限定の模擬図書館を開設するもので、地元の協力を得て公民館などを利用して閲覧と貸し出しを行った。
「図書館の楽しさを体験した子どもたちの声が契機となり、図書館開設に至った自治体もあります。地域に合った図書館建設を考える際のモデルケースになったらいなと思っ

を崩す。
また、次世代の読書リーダーを育てる「子ども司書講座」での講師活動や、県との協働で「こどもの読書活動ボランティア養成講座」の実施などにも力を注ぐ。一方、館内に目を向けると、子どもの本だけではなく、写真や芸術などに関する図書も充実している。また、大人のための絵本講座や折り紙教室、子ども向けの手遊びや読み聞かせの会、中学生以上対象の読書会など、子どもから大人までが参加できる多くの講座のほか、コンサートや原画展、作家を招いての講演会やワークショップも随時開催している。

この日も、高知こども図書館では、「本と子どもたちコンサート」が開かれていた。あんさんぶるたんぼによるクルリスマソングの合唱と、高知中央高校放送部による絵本の読み聞かせのイベントだ。こうした幅広い活動の原点は、図書館が本を核とした文化芸術(楽しいこと)に出会える場所、また行きたいと思っ

にある。
「子どもや親御さんが図書館との出会いの中で触発され、変わっていく。そして同時に図書館員も変わっていく。私は、ここにある本や人との出会いの中で変わることが重要だと思っ

ている。開館から20年、多くの挑戦を繰り返しながら運営を続けてきた原動力は、「子どもに本を手渡して、それを『おもしろかった』と言ってもらえること」と、古川館長は笑みを浮かべる。1冊1冊を手渡すことを大切に、今日も子どもたちの笑顔のやり取りが続いている。



高知城のお膝元にある高知こども図書館はいつも子どもたちで賑わう。1、2階には、合わせて約3万5000冊を開架。1999年の開館以来、約20年間で、30万人ほどの来館者を迎えている。

本之力を信じる大人たちが 子どもたちに本の世界を届ける

～子どもという希望のために～

人と本が出合い、人と人が出会う、文化芸術の発信地として活動が続いている高知こども図書館。創造力と想像力を育むコミュニティスペースとしての活動に、博報賞が贈られた。

推薦者 お祝いのことば

高知こども図書館には、かつて私の子どもたちもお世話になりました。現在は、高知県立大学の「ご近所」にある図書館として、学生たちのインターンシップや社会連携活動など学びの機会を提供していただいています。たくさんの魅力的な活動を展開されていますが、個人的には「巡回こども図書館」事業のことを聞いて「こんなこともできるのか!」と感動しました。中山間地域を抱える高知県は、住む場所によって学習環境の差が大きい。その「宿命」に挑んだ画期的な事業でした。高知県の地域課題に挑戦する同志として、これからも大いに期待しています!

高知県立大学 清原 泰治 教授



年4回開催される「本と友だちコンサート」。12月は、あんさんぶるたんぼによる合唱に、会場は大いに盛り上がった。右から2番目は古川館長。



高校生による読み聞かせに、真剣に聞き入る子どもたち。



「図書館は、文化芸術を発信する場でもある」と大谷理事長。



「多くの人に図書館に関わってほしい」と古川館長。